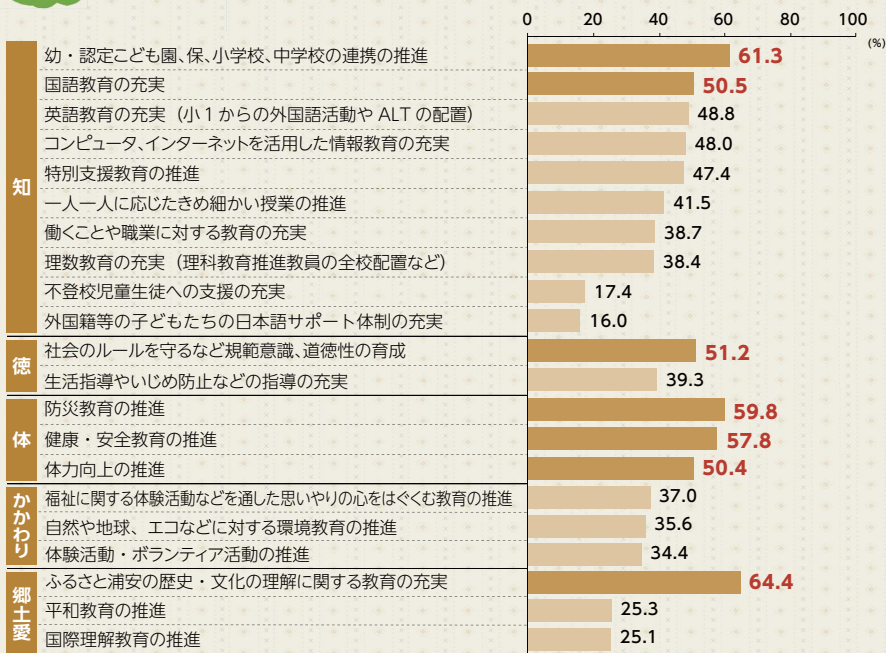


調査から見える 浦安っ子

浦安市教育振興基本計画を策定するにあたり、市民2000人を対象とした「浦安市教育に関するアンケート調査」を平成30年度に行いました。教育に対する市民の考えや、浦安市の子どもたちに期待することが次の通り見えてきました。

Q. 浦安市の子どもの教育環境において、次のような取り組みができていると思いますか



※「できている」「だいたいできている」と回答した人の割合

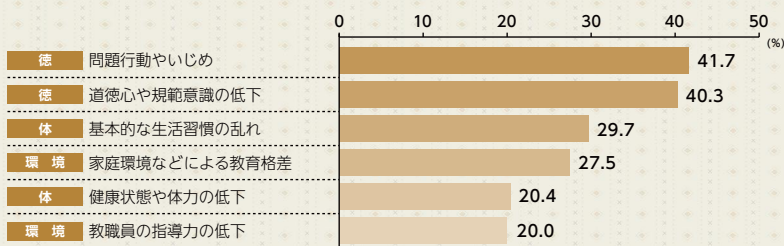
平成27年度から平成31年度までの5年間を見通した「浦安市教育ビジョン」後期基本計画の目指す5つの子ども像に沿って調査結果を整理すると、「園・保・小・中の連携の推進」、「ふるさと浦安の歴史・文化の理解に関する教育の充実」などについて評価が高くなっています。

「不登校児童生徒への支援の充実」「外国籍等の子どもたちの日本語サポート体制の充実」「平和教育、国際理解教育の推進」などについては評価が低くなっています。

「一人一人に応じたきめ細かい授業の推進」についても満足度が約40%と半数以下となっています。

Q. 子どもたちや教育について、課題と感じていることは何ですか

「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が41.7%と最も高く、次いで「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」の割合が40.3%、「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」の割合が29.7%となっています。



※割合の高かったもの6項目

Q. 小・中学校での様々な取り組みについて、今後さらに望むとしたら、どのようなことを望みますか

「自己肯定感やコミュニケーション能力を高めるような支援を行うこと」の割合が49.2%と最も高く、次いで「子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること」の割合が46.8%、「教育に対する責任感や愛情を持って接すること」の割合が36.6%となっています。



※割合の高かったもの4項目

子どもたち一人一人が主体的に学ぶ中で、自分の長所に気づき、自己肯定感を高め、互いの個性を尊重し、多様性を認め合う教育が必要となります。そして、子どもたちが、自己を見つめ、なりたい自分、生き方を見つけていけるよう、学校、家庭、地域、行政が連携・協力を図ることが重要となります。